

第3章 産業の振興

(1) 農業・水産業

<現況と問題点>

八幡地域は、市街地外に水稻栽培を中心とした農地が点在しており、農業法人の農地集積による農業経営が主体となっていますが、農地が小規模であり作業効率が悪く、労働力の負担が大きいため、今後、後継者不足が懸念されます。また、集落営農では、農業従事者の高齢化、担い手不足による農地の保全・管理が困難な状況にあります。農産物加工団体の（株）郡上八幡土里夢は、農家と連携して地元農産物の加工・販売を行っており、川合東部地区の雇用や地域づくりにも貢献しています。また、お茶の栽培が行われている小那比地区では、地区全体の人口減少、高齢化が著しく、これまでグリーンツーリズムの取り組みとして、お茶摘み体験など、都市住民との交流による地域の活性化を図ってきました。これまで取り組んできた「小那比茶」のブランド化をさらに強化し、知名度向上と販路拡大を図る必要があります。畜産業では主に肥育牛が那比・相生・西和良地区で飼育されており、法人化等による規模拡大、経営の安定化を図ってきましたが、素牛の導入価格、飼料価格の高騰に加え、枝肉価格の低迷により経営は厳しい状況にあります。水産業では「清流長良川の鮎」が世界農業遺産に認定され、毎年多くの鮎釣りファンが長良川、吉田川に訪れていますが、鮎遊漁証販売数は若干減少傾向にあります。今後も引き続き、稚魚放流や郡上鮎のブランド化に取り組み、販路拡大と流通量を確保する必要があります。

大和地域は、長良川やその支流の平坦地で、水稻を中心に農業が行われており、農家のほとんどは零細な規模の兼業農家となっています。農業従事者の高齢化、後継者の不在などから遊休農地の増加が懸念されています。現在は集落営農組織化を強く進めていますが、中々進まない現状となっています。本地域を代表する農産物として、梨、ぶどうがあります。梨の生産については、高齢化などから生産者が減少しており、担い手不足が問題となっています。本地域は、平成20年にどぶろく特区に認定され、製造業者が誕生しました。現在は他地域へも広がり、令和元年度には郡上市全域が特区に認定され、製造業者は4軒に増えました。令和3年にはそのうち1軒が全国の大賞で入賞を果たし、今後の展開が期待されます。このほか、郡上旬彩館やまとの朝市は賑わいを見せており、朝市の雇用だけではなく、生産者の所得確保、生産意欲の向上につながっています。畜産業ではいち早く自給飼料生産組合を発足し、飼料用作物の共同生産による労力の削減・低コスト化を図ってきましたが、高齢化により生産組合の継続が困難となっています。

白鳥地域は、稲作が中心の経営形態であり、これに、トマト・ほうれん草等の野菜栽培を組み合わせた複合経営が行われています。少子高齢化によって農家戸数、人口は減少傾向にあり、後継者不足が問題となっています。また、農産物の価格の低迷により農家所得が減少することで、農業離れも進み、農地の遊休化や荒廃が懸念されています。そのため、担い手を確保するとともに、農地の有効活用や農業経営の安定、低コスト化を進める必要があります。畜産業では高齢化と後継者が不在の状況から畜産農家の減少が進み、今後は畜産農家が不在となる見込みです。

高鷲地域は、標高1000mに位置するひるがの高原で栽培されるひるがの高原だいこんを中心に、ミニトマト、いちごなどの高原野菜や、トルコキキョウなどの花卉の一大産地となっています。担い手不足により農家数は減少していますが、逆に一農家あたりの経営面積は機械化による合理化や外国人研修生の労働力により増加していました。しかし、近年のコロナ禍の影響により、労働力確保が難しくなっており、経営面積の縮小を余儀なくされています。近年、干害も著しく、さらには網の目のように張り巡らされた上野用水路（パイプライン）の老朽化により頻繁に修繕を要するなど、抜本的な対策と整備が必要となっています。本地域では、ひるがの高原牛乳などのブランドで有名な酪農なども盛んです。大型飼料用収穫機による自給飼料生産にて低コスト化を図っていますが、飼料作物の高騰や施設の老朽化などにより経営環境は厳しく、また、近年酪農農家の高齢化による肉用牛生産への転換により、原乳生産量の減少が懸念され

ます。稲作については、集落ぐるみで農地を守る取り組みが実施されていますが、米離れが進み米価が安価であることや、大半が急傾斜地のため畦畔の草刈りが困難となってきたことにより、遊休農地の増加が懸念されます。

美並地域は、長良川の両岸に散在する僅かな平坦地で稲作を主体として経営していますが、経営耕地面積が小規模な上、専業農家が少ない状況にあります。また、農家の高齢化や農業後継者の減少及び米価低迷で遊休農地の増加が懸念されており、水路・農道等の共同利用施設の維持管理が困難になっています。さらに、美並地域の農業の中心的な担い手である4つの農地所有適格法人の構成員の高齢化により、法人経営の継続が困難となりつつあります。今後は、担い手対策等を積極的に推進する必要があります。

明宝地域は、河川沿いの河岸段丘と谷底斜面からなる溪谷地形となっています。多雪地帯で積雪期間が長く、日照時間が短いなど、極めて厳しい自然条件から生産性は低く、小規模経営が大半を占める典型的な山間農業地域です。稲作が地域農業の基幹となっていますが、夏秋トマトやシクラメンなど鉢物を中心とした花き栽培も行われています。寒水地区や気良地区は飛騨牛ブランドの畜産振興地域となっており、飼料用牧草の生産による低コスト化を図っていますが、生産農家の高齢化や海外との競争激化の影響が懸念され、経営はより厳しくなることが予想されます。また、口蹄疫や豚熱などの伝染病の感染は畜産業に大きな打撃を与えますが、近年、県内でも豚熱が猛威を振るっており、防疫対策を強化する必要があります。農家の経営規模が零細であるために効率が悪く、大半が兼業農家となっているのが実情です。また、近年の社会構造の変化や農業従事者の高齢化等により、担い手が不足し、農家の減少に歯止めがかからない状態となっており、活動組織の強化を図る必要があります。

和良地域は、和良盆地を中心に農地が広がる古き良き農村風景が残されており、水稻が中心の零細な経営形態となっています。農家のほとんどは零細な規模の兼業農家であり、担い手の不足と合わせて農業従事者の高齢化、後継者不足などが深刻な問題となっており、遊休農地の増加が懸念されています。現在は、農業経営だけではなく農地や集落の維持も視野に入れた支援制度により、非農業者を含め、地域全体で農地保全が進められています。畜産については、転作や遊休農地を利用して自給飼料の生産を行っていますが、飼料作物の作付にかかる経費や労働力、優良農地の確保など、実際には採算を合わせるのが難しい状況となっています。

多くの農業生産基盤施設は竣工より数十年経過していることから経年劣化が著しく、農業生産に必要な用水量が確保できないなどの問題が発生しています。また、近年の大型化する農業用機械の輸送路である農道が狭隘なため、対向車とすれ違いできず作業効率が悪い状況となっています。

全市的にイノシシやニホンザル、ニホンジカなどの有害鳥獣の個体数が増加し、農地を中心とする被害が年々増加傾向にあります。獣害防止柵の設置や猟友会による駆除活動を講じてきましたが、解決には至っておらず、農業従事者の生産意欲の低下など、農業の衰退に拍車をかけています。近年はアライグマやヌートリアなどの外来生物による被害も確認されており、効果的な対策による被害の減少が求められています。また、有害鳥獣駆除等による捕獲個体の有効活用のため、「獣肉利活用推進協議会（大和）」や「明宝ジビエ研究会」、「和良地美恵（ジビエ）工房」など地元の任意団体が発足し、飲食店等のメニュー開発、イベント開催などジビエの普及に取り組んでいます。コロナ禍により十分な活動ができない状況となっています。

<その対策>

近年、農業を取り巻く環境が非常に厳しい中、地域の基幹産業である農業を持続的に発展させるためには、農業従事者の所得について、一定水準の確保や安定化が必要となります。このため、水稻、園芸作物、畜産など、多様な認定農業者の利用集積による規模拡大やスマート農業などの新たな技術導入による農作業の効率化を進めることで、農業経営の安定確保を図ります。また、一般個人農家の高齢化に伴い、個別での農作業ができなくなっていることから、集落ごとに実質化された人・農地プランを策定し、農地中間管理事業等を活用して、集落営農組織への転換を図るとともに、これからの農業を担う若い世代の就農を支援し、新しい農産物の発掘

や農産物のブランド化、販路拡大を図ります。さらに、地産地消を図るべく郡上旬彩館を中核として、供給側である市内の朝市、担い手、個人農家、一次加工業者等と需要側である学校給食、飲食店等との需給のマッチング、市内産農産物の市内外への情報発信、市外都市部への販路拡大など、市内農産物の流通ネットワークを構築します。このほか、中山間地域等直接支払交付金や多面的機能支払交付金を活用し、集落全体で農地を守る体制づくりを推進します。

農業生産に欠くことのできない用水の確保と農業生産力維持のために、農業用水路・農業排水路の整備を進め、揚水機ポンプなどの機械電気設備は、計画的な整備更新を推進します。また、農作業の効率を向上させるために、狹隘農道の拡幅整備及び未舗装農道の整備を推進します。

全域で早急な対応が求められている有害鳥獣被害対策については、郡上市有害鳥獣対策地域力支援事業等を推進し、地域住民が実施する防除対策への支援を行うとともに、有害鳥獣被害対策のための森林整備や、適切な管理による遊休農地の解消を図るなど、自然と人が共生する地域づくりを推進します。また、鳥獣被害対策実施隊による有害鳥獣の捕獲を継続的に実施するとともに、ニホンジカ等の被害が多い地域については、狩猟期間の捕獲を強化するなど、鳥獣被害の低減に努めます。近年増加しているアライグマやヌートリア等、外来生物による被害についても対策を検討します。このほか、有害鳥獣駆除等による捕獲個体の有効活用のため、「獣肉利活用推進協議会（大和）」や「明宝ジビエ研究会」、「和良地美恵（ジビエ）工房」など地元の任意団体の人材育成、これらの団体が行う商品化等を支援します。

八幡地域では、農業法人については、経営規模や体系等の見直しを行い、後継者の確保と農業所得の向上を図るとともに、スマート農業を導入し、労働力の省力化による農業経営の継続を図ります。また、農作物の品質向上によるブランド化を図り、消費者等とのマッチングにより、市内外への販路拡大を目指します。兼業農家等については、地域ならではの多様な担い手による魅力ある農産物の拡大を図るため、栽培技術研修や新規就農者への栽培技術支援を行うとともに、朝市等と連携して多種多様な農産物の出荷・販売を促進します。また、農産物加工団体については、農家との連携を強化・拡大し、6次産業化による地域経済の好循環を図るとともに、これまで行ってきたグリーンツーリズムの各種体験メニューについては、DMOによる「観光＋農業」の考え方で、地域と連携した観光地域づくりとして、新たな体験メニューづくりに取り組み、地域の活性化を図ります。畜産業では農業法人、認定農業者の安定した経営を確保するために、農業経営改善計画を見直し、所得向上を目指すとともに、畜産共進会出場に向けた技術指導により、飛騨牛ブランドのさらなる知名度アップを図ります。水産業では、郡上鮎のPR、長良川の水質保全を図り、さらなるブランド化を目指すとともに、豊洲市場等への郡上鮎の出荷量を拡大するために、鮎をストックする保冷库・冷凍庫を整備し、生産量の確保と適正な品質管理を図ります。

大和地域では、朝市の活用により、農業所得、生産意欲の向上を図り、遊休農地の増加の抑制、後継者・担い手不足の解消を図ります。梨の生産については、後継者のマッチング、新規就農支援制度などを活用した担い手育成を行います。どぶろくについては、明宝地域とも連携し、ブランド化へ向けイベントの出店などの取り組みを行います。畜産業では大型飼料用収穫機を利用した自給飼料生産にて労力の軽減・低コスト化を図ります。また、農地への堆肥利用による還元型農業の強化に努めます。

白鳥地域では、清流長良川の最上流に位置し、白山国立公園や奥長良県立自然公園を有するエリアにあり、このような自然環境を活かした白鳥ブランドとなる農産物を創出するため、産直販売所等を通じて消費者ニーズを把握し、適地適作を基本とした新規作物の試験栽培や導入支援を行っていくとともに、地産地消や多様な流通ルートを開拓し販路拡大を目指します。また、積極的にU I J ターン者の受け入れを推進し、多様な担い手の確保や育成を行います。

高鷲地域では、労働力確保対策として、各種団体が課題を共有し解決していくため令和元年3月に設立された、たかす園芸生産協議会を中核として、就農者への住宅の確保やワーキングホリデーによる農業体験兼労働力確保、冬季スキー場で働くアルバイトを対象にした募集活動などを今後も継続して実施し、若い担い手確保に努め、産地の持続化に努めていきます。また、

今後の重量級野菜であるだいこん農家の減少を見据えて、負担軽減のため高性能機械を導入し、だいこんの洗い場の集約を行いつつ、法人化への取り組みを支援していきます。さらに、野菜の直売所や、農業体験を通じた都市住民との交流を目的とした牧歌の里、ふれあい農園などを活用した交流人口の促進を図ります。畜産業では、原乳生産量確保のため施設建設や素牛導入支援を進めるとともに、大型飼料用収穫機を導入して自給飼料生産率の向上により低コスト化を図ります。又、肉用牛生産への転換農家に対する技術指導により生産性の向上を図り、肉用牛素牛生産の主要産地を目指します。

美並地域では、地元産のイチゴやブルーベリー等を用いた新商品の開発や朝市等の開設を支援するとともに、地元農産物の収穫体験・観光農園等による都市部との市民交流を行うことにより、農業の魅力・大切さを再発見してもらうことを目指します。また、新規就農者の増加、農地所有適格法人への体制強化の支援、農地中間管理機構を活用した担い手への農地集積の推進を図ります。さらに、豊かな自然環境を活用した都市と農村との交流を促進し、農業体験を推進するとともに、「ふくべの里バンガロー村」「フォレストパーク 373」などの地域内宿泊施設を利用したグリーンツーリズム等を積極的に推進します。

明宝地域では、道の駅にある「新鮮市めいほう」が、夏秋トマトなどの多種多様な農産物を販売する場として、農業所得の安定化、農作物作付による農地の保全・活用に貢献しています。また、高齢者等の生きがいづくりや農業従事者の耕作意欲の向上にもつながっています。今後、農産物の品目を増やすための栽培講習会の実施や、明宝地域独自の農産物の開発を支援するとともに、契約農家等による農産物の安定供給を図り、新鮮市の安定した運営を確保します。農業用水を利用する小水力発電の調査・研究を進めるとともに、県が整備した小水力発電施設について、地元農業関係者が維持管理に関わる仕組みを支援します。畜産の振興については、飼料コストの増大や肥育牛の販売価格の低迷により畜産農家の経営環境が厳しい中、地域の主要産業である畜産業を推進するため、繁殖・肥育技術の向上や自給飼料生産の拡大による生産コストの低減など、総合的な施策や支援の実施により、効率的な飛騨牛の生産振興を図ります。また、堆肥の有効利用の拡大を図り、耕畜の連携を推進します。さらに、口蹄疫や豚熱等の伝染病対策としては、イノシシなどの野生動物の畜舎侵入を防ぐ対策を講じるとともに、衛生管理の徹底を図り、防疫体制を強化します。

和良地域では、水稲作付が中心となっており、農業経営の集約化・効率化を促進するため、農地中間管理事業等の活用を図り、既存の農業生産法人を中心とした地域の担い手による土地利用型農業を推進します。また、遊休農地については、生産者や関係機関との調整を図り、その解消並びに防止に努めます。朝市や、地域にある農産物加工組織への出荷を通じて、高齢者などによる生きがい農業を広く進めるほか、新規就農者への支援や、高付加価値の特産品開発を実施します。地域内には、独自の米ブランドを立ち上げた農業生産法人があるほか、数は僅かですが夏秋トマト農家や肉用牛生産農家があることから、引き続きこれらの農業経営を支援します。特に畜産業については、自給飼料生産の拡大や生産コストの低減を図り、高品質で安全な「飛騨牛ブランド」としての質の高い経営に向け、効率的な生産方式の導入を進めます。地域内企業では有機栽培による農作物の差別化と、遊休農地を利用したキノコ栽培などを拡大しており、農地の転作活用について推進を図っていきます。

(2) 林業

<現況と問題点>

本市は、令和3年2月に「脱炭素社会郡上」の実現を目指すことを表明したところであり、今後、二酸化炭素の吸収源となる森林の整備や木質バイオマスエネルギーの利用促進を視野に入れ、適切な森林整備や木材の利活用を官民連携で進め、森林の持つ多面的機能を高めていく必要があります。

八幡地域は、全体の約92%を山林が占め、植林率は高く、人工林が全体の約64%を占めてい

ます。また、全国名水百選に選定された「宗祇水」、きれいな水と独自の水利用体系により国の指定を受けた「水の郷百選」など、豊かな森林の恩恵を受け、「水のまち」としての地位を高めてきました。これまで、林道網の整備など木材生産基盤の整備を進めるとともに、間伐等による適正な森林保全・管理を行い、国土保全、水源涵養にも寄与してきました。しかし、長期に及ぶ木材価格の低迷、林業従事者の高齢化、担い手不足の課題に直面しており、早急に解決策を講じる必要があります。また、山林所有者の高齢化により今後、森林情報が途絶え、所有権界が不明瞭になり、森林整備等が円滑に進まなくなることが懸念されています。

大和地域は、全体の約 90%を山林が占め、人工林が全体の約 60%となっています。明治 32 年、古道地内に郡有林（現市有林）が創設され、以後所有する森林を拡大しながら森林整備と木材生産を進めました。木材は郡上中央病院、市内各所の橋の建設などに活用され、地方自治の発展に大いに寄与しました。また、明治後半からは、法人による奥地の大面積造林が行われ、現在の森林の姿の礎となっており、現在も森林整備を行っています。一方、個人所有の森林は、先人たちが植栽した木々が伐採期を迎えています。しかし、長期に及ぶ木材価格の低迷により、山林所有者の整備意欲の低下、それによる森林境界不明のほか林業従事者の担い手不足など様々な課題を抱え、森林整備が進まず、森林が持つ多面的機能の発揮に支障が生じることが懸念されます。

白鳥地域は、全体の約 88%を山林が占め、スギ、ヒノキ等を中心に人工林は約 43%となっています。これらの造林地は奥地にあり、経営効率の悪化が懸念されています。平成 27 年に木材事業協同組合の大型製材工場が完成し、木材加工製品の製造・販売が行われていますが、国産材の需要の減退が長期に及び、木材価格が低迷する中、林業に関係する者の減少や後継者不足が進むなど、大きな問題となっています。また、度々豪雨や暴風による林地崩壊、流木災害等が発生していることもあり、間伐等森林資源の維持管理の重要性、水源の涵養、自然とのふれあいの場となる森林公園の機能向上が必要となっています。

高鷲地域は、全体の約 81%を山林が占め、スギを中心とした人工林率は約 40%となっています。また、長良川と庄川の源流部に位置し、水源地として良質な森林を育成していることは大きな意義とアピール効果があります。人工林の育成は、豪雪地帯であることから幼木期には雪起こし作業が必要となり、雪害による倒木被害にも見舞われ、近年は鳥獣害対策にも苦慮しています。一方で、当地域の森林は、保養所や別荘地利用のほか、アウトドア・レジャーなどでも長年にわたり利用されており、都市部からの来訪が盛んな状況にあります。そのため、自然環境保全を適切に行っていく必要がありますが、森林整備の後継者不足や所有者の高齢化が問題となっており、林業技術の伝承や資源活用への取り組みが求められています。

美並地域は、全体の約 89%を山林が占め、ヒノキを中心とした人工林率は約 56%となっています。これらの山林は、清流長良川の重要な水源地であるとともに、林産物の供給、土地の保全、保健休養などの公益的機能や経済的機能を発揮し、地域住民と密接な関係によって生活に深く結び付いています。本地域の山林は、地形が急峻であることから、土石流・崩落決壊等の災害危険地帯が多く見られます。このため、災害に強い山づくりに努め、恵まれた自然を守り、市民の快適な生活を確保することが必要となります。また、地域林業の活性化を図るため、木材流通施設「郡上森林組合木材センター」を整備し、良質材の育成推進を行っています。高齡化が進む中、森林整備に必要な労働力は減少傾向にあり、伝統的な林業技術の継承が課題となっています。森林は環境保全や健康・レクリエーションの場として見直されており、そのニーズに応じるためにも、自然環境の保全を計画的に進め、森林と人とが共生できる環境づくりに努める必要があります。

明宝地域は、全体の約 95%を山林が占め、スギを中心とした人工林率は約 55%となっています。このような豊富な森林資源がある中、長期に及ぶ木材価格の低迷、ニホンジカによる森林被害などにより、山林所有者の森林整備に対する意欲が低下し、間伐や伐採など管理があまり行われていない状況となっています。林業従事者は、需要規模の縮小や従事者の高齢化等により年々減少しており、この先、適正な山林管理が維持できない規模まで従事者が不足する可能性があります。一方で、都会から移住して山で働くことを希望する若者も増えてきていますが、就業先や住居の確保などに対する受入態勢の整備という課題があります。新たな動きとしては、

林地残材の有効活用を中心に、地域における森づくりを積極的に進める民間団体の活動が活発化しており、公共の温泉施設への木質ボイラー導入と併せて、森林資源のエネルギー活用を進めています。

和良地域は、全体の約93%を山林が占め、ヒノキを中心とした人工林率は約66%となっています。特に和良地域などの郡上東部地域は濃飛流紋岩が母岩となっているため一般的にやせた土壌であり、ヒノキの生産の適地となっています。しかし、長期に及ぶ木材価格の低迷、市場への出荷経費の負担増等による林業の採算性の問題から、山林所有者の森林整備に対する意欲が低下し、間伐等、森林の手入れが行き届かなくなっており、山林境界が不明な個所が多いのが現状です。特に、所有する山林面積の小さい林家ではその傾向が顕著で、山林の荒廃が懸念されています。このため、森林の持つ環境保全、水源涵養、保健機能等の多面的機能の維持増進を図ることと併せ、活力ある林業地域の形成が求められています。

今後、市内にバイオマス発電所の立地が予定され、木材需要の増加が見込まれることから、素材生産量も増加し、素材生産活動は間伐から皆伐へ変わっていくと思われますが、持続可能な森林経営のために、再造林による皆伐後の確実な更新が求められ、主伐・再造林一貫作業による低コスト化の推進が重要課題となっています。

森林整備に必要な、市内の林道網及び作業路の路網密度は、全国の23.5m/haに比べ9.5m/haと低い状況です。そのため木材搬出にかかる運搬コストが割高となり、所有者の森林整備意欲の低下による整備の遅れ、そして整備不足山林の山地災害発生リスクが懸念されます。

<その対策>

近年、森林・林業への関心の薄れ、手入れされず放置された森林が多く存在することから、平成31年4月に森林経営管理制度が始まり、市町村が私有林の森林経営を行うことができるようになり、本市でも森林経営管理制度による森林整備の推進に取り組んでいるところです。市内の多くの人工林は利用期を迎えています。平成27年に大型製材工場が稼働を始めたことにより、その森林資源を市内で活用できる体制が整い、木材の安定供給が求められています。本市では「郡上市森林整備計画」に基づき、森林の持つ多面的機能の維持・発揮と、木材の安定供給を図るため、間伐等の森林整備や主伐・再造林を進めているところです。このため、森林整備に必要な林道網、作業路の整備や適正な維持管理を引き続き進めるとともに、森林の将来目標区分の設定によるゾーニングに基づき、間伐等を行うなど適正な森林の保全、管理に努めます。

木材利用を図るため、郡上市産材を使用した住宅等の建設、リフォーム等に対する支援、木質燃料ストーブ導入に対する支援を推進しています。今後、素材生産、植林、保育など森林整備事業は増加すると予測されますが、森林技術者が不足している状況で、森林・林業を担う森林技術者の技術の向上、技術者の確保のための支援、ICT技術の導入による作業の効率化を推進します。また、将来の森林・林業を担う人材を育てるために、森林環境学習や幼少期からの木育の推進など人づくりを進めます。

こうした「郡上山づくり構想」の実現に向けた施策の推進により、森林の持つ多面的機能の発揮を図り、脱炭素社会の実現、及び国土保全と林業の両立を目指します。

(3) 商工業

<現況と問題点>

八幡地域では、古くから郡上地域一帯の商業の中核としての役割を果たしてきました。しかし、車社会の浸透や消費者ニーズの変化などに伴い、購買先が都市部に向かう傾向にあり、近年は、大型店などの進出にも影響を受け、資本力の小さい既存商店の経営基盤は一層厳しいものとなっています。若手経営者を中心に消費者ニーズの動向を捉えて、郡上ブランドの開発に取り組む商店もある一方、後継者不足などにより廃業する店舗や空き店舗が増えてきており、経営の合理化や人材育成、空き店舗対策、事業承継対策などが課題となっています。

大和地域には、リバーサイドタウン Pio を中心とした商業集積地があり、地元だけでなく市内外から多くの人に利用されています。また、「古今伝授の里づくり」の拠点施設として古今伝授の里フィールドミュージアム、やまと温泉やすらぎ館、道の駅古今伝授の里やまと、郡上旬彩館やまとの朝市があり、交流・情報発信の場となっています。しかし、人口減少及び高齢化による購買力の低下、オンラインショッピングの増加などにより、徐々に賑わいに陰りがみられ、その影響は大型店の撤退など、見える形で現れてきています。コロナ禍により今後の状況が見通せない状況ではありますが、外資系ホテルが開業し来訪客の増加が期待されることから、来訪客の受入体制の構築や、多様化するニーズへの対応が求められます。工業については、平成6年に整備した工業団地には現在11社が操業しており、本市全体の雇用に寄与しています。

白鳥地域では、白鳥駅周辺の市街地を中心として発展してきましたが、高速交通網の整備や主要幹線道路の整備に伴い商業圏域が分散化されてきています。また商業を取り巻く環境は個人消費の伸び悩みと消費者ニーズの急速な変化、大型店の進出により一層厳しいものとなっています。一方、工業では勝光島工業団地の造成と大島工業団地を拡張整備し、東海北陸自動車道と中部縦貫自動車道が交差するアクセスの便利な工業団地として、優良企業の誘致を図ってきました。今後は、既存企業の技術向上や経営の強化を図るとともに、新たな産業の創出や、さらなる企業誘致を図り、若者の雇用確保にも取り組む必要があります。

高鷲地域では、戦後からは乳牛飼育による畜産業の発達、ひるがの高原大根栽培をはじめとする野菜などの栽培促進、スキー観光産業などによる地域への入込者の増、別荘開発等を含めた都市交流などにけん引された形で商業が発達しました。東海北陸自動車道ひるがの高原サービスエリア内の上り線及び下り線内に本市が整備した地域食材供給施設の地域産品を含めた物品販売の伸びは著しく、これまでの農産物の販売から、加工を施し付加価値を付けた商品販売、いわゆる第6次産業までに成長しています。他には販売店に加工産品を提供する農畜産物処理加工施設（株式会社たかすファーマーズが管理運営）を整備し、高鷲ブランドを構築して営業しています。今後は、リピーターを増やせる商品開発や地産地消にこだわった商品流通、高鷲ブランド品販売をさらに進める必要があります。

美並地域の商業は、個人経営が大半を占め経営規模も小さく地域分散型となっています。車社会の浸透に伴い消費者の生活圏が広がり、消費者は近隣の大型店へ向かう傾向があります。その上、経営者の高齢化や後継者不足なども相まって、廃業を余儀なくされる商店も見られるなど、事業承継が課題となっています。また、本地域では、高速道路へのアクセスが良く製品等の運搬が比較的容易であることから、自動車関連産業、プラスチック加工産業、印刷機械産業が工業の大半を占めています。今後も、既存企業の経済基盤強化と生産機能の充実化を図っていく必要があります。さらには、地域外へ流出傾向にある若年労働者の確保・定着化が課題となっています。

明宝地域において、昭和60年代から進めた第三セクター会社であるハムを製造する明宝特産物加工(株)と、トマトケチャップ等農産加工品を製造している(株)明宝レディースは郡上を代表する企業となっています。また、明宝ハム、明宝トマトケチャップに次ぐ特産品を模索する中、古くから郡上や飛騨地方で郷土料理として食されてきた「鶏ちゃん」が、口コミやTV、雑誌等で紹介され注目を集めたことを契機に自家製鶏ちゃんの販売店や鶏ちゃんが食べられる店が中心となって「めいほう鶏ちゃん研究会」が設立されたことから、この団体に地域おこし実践隊を派遣し、B-1グランプリをはじめ、県内外のイベントに出展するなど、地域の活気を取り戻すため、「めいほう鶏ちゃんの里」のブランド化による地域おこしを進めてきました。一方で、地域の森林資源を活用した産業は少なく、木材価格が低迷する中、付加価値を付けた木工加工品の製品化が大きな課題となっています。そこで近年、林地残材を活用した割り箸の開発など、新たな取り組みが行われています。このように、地域で産業を興し、雇用を守ることで地域の活性化を図っています。

和良地域では、ライフスタイルの変化や消費者ニーズの多様化、オンラインショッピングの普及、高速道路等の交通網の発達などにより、地域の中心部の商店数が減少し、かつての賑わいは失われつつあり、商工会員の減少も深刻な問題となっています。また、地域で操業する自動車部品や電子部品、木工業等の製造業は、多くは零細な経営形態であり、安定した経営及び雇用の

確保に苦慮しています。全国的にも知名度が上がっている「和良鮎」については、地域に飲食店などが少ないため、食べられる場所を確保する必要があります。

<その対策>

商工会、産業支援センター等、関係事業団体との連携のもとに市内の中小企業・小規模事業者の持続的発展のための多様な課題への対応や経営改善を進め、経営の近代化を促進するとともに、後継者不足の中で、担い手となる人材育成を推進し、同業種、異業種間の連携による新たな商品開発や新ビジネスの創出に積極的に取り組みます。また、新型コロナウイルス感染症の影響により、新たな生活様式が求められる中、キャッシュレス、電子商品券等のデジタル手段を活用できるシステムの構築を推進します。

八幡地域では、商店街の活性化が重要課題となっており、空き店舗などの利活用支援、起業、商品開発や販路拡大、ICT 技術導入への支援などを積極的に行います。また、事業者の高齢化や後継者不足などによる廃業に歯止めをかけるため、持続可能な経営状況への改善に向けた支援や後継希望者とのマッチングなど、事業承継を推進します。

大和地域では、大和地域ブランドの磨き上げを掲げ、地域資源を活用した観光集客力の強化、地域の商業の発展につながる、食（どぶろく、ジビエ等）のイベント、東氏や古今伝授の文化的イベントの開催を支援していきます。また、地域密着型の外資系ホテルの開業の商機を活かすよう利用者のニーズを把握し、隣接する道の駅や温泉のほか、周辺の商店等との連携を強化するなど、地域の発展につながる取り組みを推進します。工業については、引き続き地域、工業団地の企業と連携して雇用を維持し、地域の活性化を図っていきます。

白鳥地域では、東海北陸自動車道と中部縦貫自動車道の結節点という地の利を集客に活かすため、地域にある3つの道の駅については、インターチェンジからのアクセスの良さを活かして地域の魅力発信の場とするとともに、農産物・特産物の販売促進や機能強化を図ります。また、中京圏と北陸圏をつなぐ高速道路網の完成を見据え、広域物流拠点導入の検討や、新たな工業団地開発に向けた調査と受入用地の確保を図り、雇用の場の確保に取り組みます。

高鷲地域には、ひるがの高原大根を中心とした高原野菜や花卉、乳製品といった全国に誇れるブランド製品があります。それらの製品に付加価値を付けるため、加工品を中心とした商品開発や、年間を通して訪れる観光客と叫高原スポーツ広場の利用拡大を見据えた販売戦略への展開を積極的に進めるための支援を行います。また、多くの利用者が見込まれるひるがの高原サービスエリアでは、ICTを駆使した事業PRを積極的に進め、販売拡大につなげるほか、地域内の商店等においては高鷲地域協議会公式 LINE アカウントを活用し積極的な情報提供を行うことで、店舗の存続と地域経済の活性化につながるよう支援していきます。

美並地域では、地域の強みを活かした内発的産業の創造に向け、地域産業の育成と、新しい産業を担う人材の育成が重要となります。このため、地域の資源を活用した特産品を開発すること、産業などの「付加価値」を高めることなどにより、既存商店の存続及び起業・創業に向けた支援を行います。また、雇用の場を確保するため、大矢元地区において工業団地の整備を行い、地元で働きたいと思える環境づくりに取り組みます。また、企業の誘致は、地域のニーズにあった企業などを中心に、県と連携し進めていきます。

明宝地域には、郡上の代表ブランドとして広く認知されている、「明宝ハム」、「明宝トマトケチャップ」、「めいほう鶏ちゃん」など、手づくりによる魅力あふれる特産品が多くあります。今後は、本物にこだわった地場産品のお米や濁酒、ジビエのブランド化や、地域資源を活かしたスイーツなど、新しいコンセプトを取り入れた商品開発を推進します。このため、第三セクターを中心に生産者、加工業者、販売業者等の団体間の連携を高め、商品開発や販路構築により新しい産業・雇用の創出を推進します。また、特産品の広報活動として各種イベントへの参加を支援するなど、地域活性化につながる活動に取り組みます。

和良地域では、和良地域協議会が策定する「和良の郷夢ビジョン」に基づく、和良の強みを活かした内発的産業の創造に向け、地域産業の育成と、新しい産業を担う人材の育成が重要となります。人口の減少や高齢化の進行により低迷している地域経済を改善させるため、地域資源

を活用した起業の推進、コミュニティビジネスの創出支援などを積極的に行います。また、流入人口の増加が将来的に見込まれる濃飛横断自動車道の延伸を見据え、道の駅和良を産業拠点として、地域の産業基盤を強化する必要があります。そして「和良鮎」や「和良蛸」などブランディングにより知名度が向上している地域資源をコミュニティビジネスへつなげる取り組みを行うとともに、高齢者の買い物支援として、町内の食料品店を起点とした移動販売の支援を行っていきます。全国的に問題となっている地域のガソリンスタンド廃業問題は和良地域でも深刻な問題となっており、脱炭素社会の到来を見据えながら、和良地域に現在 1 件残るガソリンスタンドをどう存続させていくかを地域で検討し対策を行っていきます。

（4）観光

<現況と問題点>

郡上市を観光目的地としてより多くの人を選択してもらうため、官民一体となってエリア全体の観光地域づくりを先導するため（一社）郡上市観光連盟の組織強化が求められています。また、この組織において、顧客の利便性を高めるための効率的、効果的な情報発信に加え、収集した情報の分析と、分析データを活用した観光戦略の立案、マーケティングを行える人材の育成が急務となっています。加えて、インバウンドへの対応や歴史・文化資源、歴史的建造物などの魅力ある地域資源を活用した、体験型・通年型・滞在型観光まちづくりのさらなる推進が求められています。

八幡地域は、重要伝統的建造物群保存地区にも選定された古い町並みを用水路がめぐり、名水百選「宗祇水」や「やなか水のこみち」と呼ばれる水路など名水スポットが点在しています。また、市街地のどこからでも見える郡上八幡城は日本最古の木造再建築城であり地域のシンボルともなっています。郡上おどりは 430 年以上の間、唄い踊り続けられてきた伝統芸能で日本を代表する民踊の一つであり、毎年およそ 30 夜開催される日本一ロングランな盆おどりとしてたくさんの人が訪れます。近年、外国人観光客が増加傾向にあり、受入態勢の強化など、インバウンド対策を講じてきましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、外国人観光客は皆無となっています。また、感染拡大防止対策として、令和 2 年と令和 3 年には郡上おどりの開催を見合わせるなど、観光関連産業の経済的な影響は大きく、事業継続の危機に直面しています。これらの社会環境の変化に柔軟に対応するため、海外からの FIT（外国人個人旅行者）やマイクロツーリズムへの対応が急務となっています。

大和地域は、地域資源として、和歌をはじめとする中世から伝わる文化や東氏館跡をはじめとする史跡、郡上鮎、ジビエ、梨、ぶどう等の農水産物や、どぶろく特区を活用したどぶろく製造、長良川や桜並木といった自然の景観等、特色のある資源を地域ブランドとして確立する取り組みを進めてきました。しかしながら、観光入込客数は伸び悩んでおり、その要因の一つに地域の宝である数々の資源を活かしきれていない現状があることから、今後、効果的な活用や PR に努めるとともに、外資系ホテルの開業を契機とした滞在型観光への転換が求められています。また、東氏の居城であった篠脇城址の発掘調査から貴重な発見があったほか、内ヶ谷ダムが完成に向かっていることから、新たな観光資源として活かす方法を検討する必要があります。

白鳥地域は、清流長良川の最上流に位置し、白山国立公園や奥長良川県立自然公園を有する自然環境に恵まれた地域です。平成 30 年には、世界農業遺産に認定された「清流長良川の鮎」をまるごと体験できる総合施設として、「清流長良川あゆパーク」が整備され、多くの観光客で賑わっています。歴史的にも古くから白山信仰の拠点の一つである美濃馬場として隆盛を極め、長滝白山神社・白山長瀧寺・白山中居神社等の神社仏閣には信仰の歴史を伝える文化財が数多く残されています。さらに、民俗芸能では「拝殿踊り」や「六日祭」等、地域特有の行事が伝承されています。これらの地域に深い関わりを持つ白山信仰の歴史的遺産やその背景となる自然、伝統文化を地域資源として保存しつつ、認知度を高め、交流人口の増加を図ることが重要です。特に中部縦貫自動車道の福井方面の開通に合わせ、北陸方面からの観光客の増加が見込まれることから、地域の特色や特産品の発信地であり、地域散策の拠点となる 3 つの道の駅の環境整

備を計画的に行う必要があります。また、夏の風物詩として踊り唄い継がれてきた「白鳥おどり」は若者にも人気があり、重要な観光資源となっているため、来場者に良い雰囲気の中で快適に踊りを楽しんでもらえる環境づくりを一層進めることが必要となっています。さらには、白鳥おどりの保存伝承を目的に結成された白鳥踊り保存会では、少子高齢化や伝統文化に対する意識の希薄などにより、会員の減少が危惧され後継者の育成が課題となっています。

高鷲地域は、郡上市の北端であり東海北陸自動車道のICが2箇所あり、中部国際空港から2時間半と交通至便な立地環境です。東海地方随一の6スキー場群があり、人工降雪機により他エリアより営業期間が長く、加えて早朝営業やナイトスキーにより営業時間も長いのが特色です。また、外国人など長期滞在者を主なターゲットとして、高鷲町内6スキー場間を結ぶシャトルバスの運行や共通リフト券の販売、多言語看板やWi-Fi環境の整備など、地域として一体感のある一大スノーリゾート「タカスマウンテンズ」を形成しています。自然豊かな地の利とキャンプブームも手伝い、また、団体旅行から個人旅行へのシフトなどにより、従来にはなかったフィンランドビレッジ、モンゴルゲルやグランピングなど顧客の嗜好にきめ細かに合わせた宿泊施設も誕生しています。しかし、従来からの宿泊施設は老朽化が著しく、高齢化、後継者不足により改修が進んでいません。また、近隣の有名観光地である飛騨高山や白川郷などへのアクセスが良いことが、逆に立ち寄りを中心とした観光形態につながっており、今後、滞在する観光客の獲得が求められます。このほか、「ひるがの高原湿原植物園」を中心に分水嶺公園までを一体化した整備構想を民間と行政で検討しており、今後、観光資源としての一層の魅力向上が求められています。

美並地域は、郡上市の南端に位置し、東海北陸自動車道が縦走していることから、市外・県外からの観光客が訪れやすい反面、通過点となっています。従来の「立ち寄り型観光」から「宿泊滞在型観光」への移行を目指して、事業者同士が連携することにより新たな観光プランを作成し、観光客の誘致を進めていく必要があります。地域の中心には一級河川の長良川が流れており、鮎釣りやカヌー・ラフティングなどのアウトドアアクティビティを楽しむことができます。また、各所に滝もあり、特に釜ヶ滝や矢納ヶ淵などは真夏に涼を求めて訪れるには最適なところudur。このほか、「粥川ウナギ生息地」や熊野神社にある「神ノ御杖スギ」に代表される天然記念物、平成30年度に林業遺産に選定された星宮神社社叢林、円空仏をはじめとする多くの文化的・歴史的財産も有していますが、十分な活用がされているとは言えません。加えて、観光事業者の高齢化によりICTを活用できていないこともあり、観光客への情報提供が課題となっていることから、豊富な自然や、古来より受け継がれてきた地域文化など、既存の地域資源を活かした新たな施策と適切な情報発信が望まれます。

明宝地域は、四方を山々に囲まれた自然あふれる環境で、アウトドアを楽しむ好適地となっており、キャンプやフィッシング、トレッキングを目的として多くの観光客が訪れています。気良川には初心者でも釣りが楽しめる溪流釣り場「気良川特別漁場」が設置されており、鮎漁解禁までの概ね3月から6月の期間に、アマゴ釣りが楽しめます。また、国道472号の新緑や紅葉は多くの人々に知られ、郡上市八幡町から高山市清見町までの約70kmの区間において楽しむことができますが、東海北陸自動車道の全線開通や中部縦貫自動車道の整備によって、通行車両数及び観光客数は平成10年度をピークに年々減少し、沿線にある「道の駅明宝」の売り上げも減収となっています。このため、今後は国道472号の整備や道の駅の魅力づくりを積極的に進めるとともに、グリーンシーズンの誘客向上を図るなど、観光客数の増加が急務となっています。「めいほうスキー場」は、明宝地域のシンボルとなっていますが、近年のスキー人口減少により来場者は減少傾向にあります。このような状況の中、地域の新たな取り組みとして、地域おこし実践隊による民泊や自然体験など新しいツーリズムの開発が進んでいます。

和良地域では、素朴な農村風景や良好な水辺環境が残されており、和良川には国の特別天然記念物オオサンショウウオや、清流めぐり利き鮎会で過去に4度のグランプリを受賞した和良鮎、和良川支流の鬼谷川沿いには乱舞する蛍が見られるなど、豊かな自然資源に恵まれた地域となっています。長良川水系で捕れる「郡上鮎」と並ぶ「和良鮎」は、日本一美味しい鮎として広く知られており、夏には多くの釣り客が和良川へ訪れます。近年、新型コロナウイルス感染症の影響などにより、人の流れも変化しており、キャンプや自然体験へのさらなる需要が見込ま

れることから、都市部からの利用者が多く訪れる地域内の和良川河川敷と森林を活用した二つの違うタイプのキャンプ場施設の受入態勢を整えていくことが求められています。また、豊富な自然や古来より受け継がれてきた地域文化、全天候型観光施設を活用した体験型ツーリズムの構築、現在は温泉スタンドのみの利用に限られている長寿の湯の観光利用など、既存の地域資源を活用し、地域経済を活性化させる施策が望まれます。また、和良地域は、東海北陸自動車道郡上八幡 IC から国道 256 号を経由して日本三名泉である下呂温泉へ向かうルート上にあることから、今後、濃飛横断自動車道の延伸と合わせて郡上市の東玄関口としての往来客の増加が期待されます。

<その対策>

新型コロナウイルス感染症の影響により、外国人を含めた観光客が激減している状況の中、マイクロツーリズムや教育旅行、FIT など、新たな旅行スタイルに合わせた受入態勢を強化するとともに、新型コロナウイルス感染症収束後のタイを中心とした ASEAN 諸国などからの観光客の受け入れやおもてなしの態勢も強化します。DMO による観光地域づくりでは、地域の自然や文化を最大限に活かしたオリジナルの体験商品の造成など、地域と関係事業者が連携して、稼ぐことのできる観光地域を目指します。また、こうした観光地域づくりを進める上では、適切な情報収集と効果的な情報発信が必要となるため、ニーズ調査などのデータ収集・分析による旅行商品開発、インフルエンサーによる情報発信等を行うとともに、郡上ファンのネットワークづくりにも取り組みます。

東海北陸自動車道の整備等で交通アクセスが格段に良くなったことや、充実された施設群により、郡上市内にある 10 箇所のスキー場は、中京圏のみならず関西圏からも多くのスキーヤー・スノーボーダーが訪れ、ウインターリゾートとして高い知名度を誇っています。令和 2 年度には観光庁により「国際競争力の高いスノーリゾート形成事業」が採択されました。今後はスキー場と地域との連携を強化し、魅力ある旅行商品の造成の支援、既存のウインタースポーツ以外の体験商品造成の支援などに取り組みます。

八幡地域では、歴史的な街並みや景観を維持・保全するとともに、地域の重要な観光施設である郡上八幡博覧館や城下町プラザ、八幡地域の観光案内所の拠点である郡上八幡旧庁舎記念館などの整備を進めます。また、郡上おどりや伝統的水利用をはじめとした観光・文化資源を継承するため、自治会や学校等と連携した担い手の育成などに取り組みます。加えて、地域資源を活用することで、人口減少下にあっても地域が持続可能となる事業の検討及び実施をしていきます。このほか、外国人観光客や団体客の著しい減少に対応するため、近隣から観光客を誘致するマイクロツーリズムへの転換や農業体験等の自然を活かしたグリーンツーリズムを推進するなど、歴史・文化・自然を最大限に活かした観光地域づくりに、観光関連団体と地域が一体となって取り組みます。

大和地域では、大和ブランドの磨き上げと道の駅、観光協会と連携した地域資源の活用により、観光集客力の強化を図っていきます。食や文化といった多くある地域資源を、様々な方法で情報発信していきます。新たな観光資源と期待される篠脇城跡や内ヶ谷ダムへのアクセスの整備、大和の魅力を伝える周遊コースづくりを進めます。また、古今伝授の里にちなんだ和歌を題材としたプランなど、特色ある滞在型プランづくりに取り組んでいきます。

白鳥地域では、白山信仰の歴史・文化や、自然豊かな白鳥地域の魅力を発信するための取り組みを推進します。その拠点として、白山文化博物館や白山龍宝殿等の施設の活用を進め、また、清流長良川あゆパークとの連携による来訪者の受入体制の拡充を図ります。さらには、白山信仰の歴史・文化や自然を紹介する周遊コースの設定、観光ガイドの整備に取り組みます。また、白鳥おどりなどの伝統文化の継承のため、自治会や関係団体、学校等と連携して地域に根付いた人材育成に取り組みます。

高鷲地域では、主要な観光資源である 6 つのスキー場群を訪れる観光客の多様なニーズに対応した取り組みを推進するとともに、さらなる集客に向けた滞在型・体験型のプランづくりへの支援を行います。また、「ひるがの高原湿原植物園」を中心に分水嶺公園までを一体化した整

備により既存の資源に磨きをかけ、自然体験を提供し、滞在時間延長が図れるよう推進していきます。このほか、修学旅行生による民泊の利用が増えていることから、豊かな自然や郷土料理に親しむ体験や農業体験はもとより、高鷲地域の文化と開拓の歴史、生活様式の伝承など先人の苦労を伝える「たかす開拓記念館」の活用を通じて、地域への理解を深めてもらうことで、将来、来訪していただけるリピーターを増やしていきます。また、吠高原スポーツ広場を活用した合宿誘致を支援し、市内のスポーツ団体との交流を深め、スポーツツーリズムの活性化を図ります。

美並地域では、一級河川の長良川や瓢ヶ岳などの豊かな自然環境を活かし、トレッキングやラフティングなどの体験型観光及び滞在型観光の推進を図ります。従来の「立ち寄り型観光」から脱却するために、老朽化した宿泊施設の改修・整備を行い、地域内の観光業者と「フォレストパーク 373」等の宿泊施設が連携し、地域内で終日遊べるプランの提案を行っていくなど、リピーター客の確保にもつなげます。また、林業遺産に選定された星宮神社社叢林や美並地域の文化・歴史的遺産等を市内外の多くの方へ伝えるため、ドローンを活用した名所紹介や、インターネット等を活用した情報発信など、観光客増加のための支援を行います。このほか、当地域の玄関口にある「道の駅美並」や東海北陸自動車道「瓢ヶ岳 PA」などで特産品の普及宣伝を積極的に図るとともに、地元特産物を活用した「美並ごっつお〜弁当」をはじめとした新商品の開発を進めます。

明宝地域では、道の駅明宝が国土交通省の重点道の駅として選定されたことを契機とし、道の駅を立ち寄り施設から目的施設へと転換させる取り組みを進めます。具体的には、施設整備の検討や商品開発を含めたトータルデザインづくりに取り組みます。「めいほうスキー場」に訪れるスキーヤーやスノーボーダーの誘客を推進するため、人工降雪機や無料 Wi-Fi、多言語案内表示などを最大限活用し、早期オープンによる来訪者の獲得や利便性を高める取り組みを促進します。また、グリーンシーズンの誘客を図るため、めいほう高原や日出雲（ひずも）の森などの豊かな自然を活かした自然体験施設の整備やメニューづくりの支援に取り組むとともに、地域住民と連携した民泊事業や農山村体験、自然体験を多くの都市住民等に提供する農泊等の新しいツーリズムを確立します。このほか、令和3年10月に開通した「めいほうトンネル」によりアクセスが向上した小川地域の新たな観光地域づくりに取り組みます。こうした観光地域づくりを進めるため、地域の観光振興の核となる明宝観光協会と関係団体との連携強化を図り、来訪者の動向分析に基づく新たな観光戦略による地域の活性化を目指します。

和良地域では、日本一美味しい「和良鮎」や特別天然記念物のオオサンショウウオ、和良川支流の鬼谷川に多く生息する「和良蜚」や美しい山河など、豊かな自然に恵まれた環境を最大限に活かし、自然環境と景観の保全に配慮したアウトドアツーリズムを推進するとともに、地域の文化や歴史を活かした取り組みや、全天候型運動施設がある和良運動公園を活用したスポーツツーリズムを推進し、和良観光協会を中心に観光地域づくりを進めます。また、今後は、地域の交流人口の増加を図るため、キャンプ場周辺の環境や施設の魅力を発信するなど、利用者増加に向けた取り組みを支援します。このほか、濃飛横断自動車道の延伸や主要地方道金山明宝線「めいほうトンネル」の完成により、幹線交通網が整備されることで交流人口の増加が見込めることから、道の駅和良一帯の地域資源を連携させた観光・体験・交流事業を推進します。

(5) 計画

事業計画（令和3年度～令和7年度）

持続的発展 施策区分	事業名 (施設名)	事業内容	事業 主体	備考
2 産業の振興	(1)基盤整備			
	農業	県単土地改良事業 農業農村整備事業 (かんがい排水事業)	郡上市	

事業計画（令和3年度～令和7年度）

持続的発展 施策区分	事業名 (施設名)	事業内容	事業 主体	備考
	農業	市単土地改良事業	郡上市	
		中山間地域総合整備事業 (郡上八幡地区)	岐阜県	八幡
		中山間地域総合整備事業 (みなみ地区)	岐阜県	美並
		中山間地域総合整備事業 (郡上北東部地区)	岐阜県	明宝・和良
		中山間地域総合整備事業 (郡上東地区)	岐阜県	八幡・明宝・和良
		中山間地域総合整備事業 (大和地区)	岐阜県	大和
		中山間地域総合整備事業 (白鳥北部地区)	岐阜県	白鳥
		中山間地域総合整備事業 (白鳥南東部地区)	岐阜県	白鳥
		中山間地域総合整備事業 (白鳥南部地区)	岐阜県	白鳥
		中山間地域総合整備事業 (高鷲地区)	岐阜県	高鷲
		中山間地域総合整備事業 (たかす地区)	岐阜県	高鷲
		ため池等整備事業 (西坂地区)	岐阜県	白鳥
		ため池等整備事業 (畑ヶ谷地区)	岐阜県	白鳥
		ため池等整備事業 (上野地区)	岐阜県	高鷲
		ため池等整備事業 (野々谷地区)	岐阜県	高鷲
		ため池等整備事業 (板橋地区)	岐阜県	高鷲
		かんがい排水事業 (剣地区)	岐阜県	白鳥
		経営体育成基盤整備事業 (長滝地区)	岐阜県	白鳥
		畜産担い手育成総合整備事業	畜産 公社	八幡・明宝
		強い畜産構造改革支援事業	郡上市	
		畜産担い手支援事業	郡上市	
	林業	林道大谷～大柵線開設事業 L=1,600m W=4.0m	岐阜県	八幡
		林道小間見～栗巣線開設事業 L=4,500m W=3.6m	岐阜県	大和
		林道二間手～水沢上線開設事業 L=2,000m W=4.0m	岐阜県	明宝
		林道小川東線開設事業 L=3,800m W=3.6m	岐阜県	明宝
		林道那留～六ノ里線開設事業 L=3,600m W=3.6m	岐阜県	白鳥

事業計画（令和3年度～令和7年度）

持続的発展 施策区分	事業名 (施設名)	事業内容	事業 主体	備考
	林業	林道干田野～石徹白線開設事業 L=1,100m W=4.0m	郡上市	白鳥
	水産業	水産振興事業	郡上市	
	(5)企業誘致			
		大矢元工業団地造成 A = 2.54ha	郡上市	美並
		大矢元工業団地関連整備 A = 0.32ha	郡上市	美並
	(9)観光又はレクリエーション			
		観光施設整備事業 (郡上八幡博覧館改修)	郡上市	八幡
		観光施設整備事業 (ホテル積翠園改修)	郡上市	八幡
		観光施設整備事業 (城下町プラザ改修)	郡上市	八幡
		観光施設整備事業 (郡上八幡旧庁舎記念館改修)	郡上市	八幡
		街なみ環境整備事業 ・案内看板整備 ・道路美化	郡上市	八幡
		温泉施設整備事業 (やまと温泉やすらぎ館・機械 設備改修)	郡上市	大和
		道の駅施設整備事業 (道の駅古今伝授の里やまと・ 機械設備改修)	郡上市	大和
		観光施設整備事業 (ぎふ大和パーキングエリア・ 機械設備改修)	郡上市	大和
		観光施設整備事業 (公衆トイレ建設・改修)	郡上市	高鷲
		温泉施設整備事業 (明宝温泉湯星館建物改修・機 械設備改修)	郡上市	明宝
		観光施設整備事業 (小川きのり改修)	郡上市	明宝
		道の駅施設整備事業 (無料休憩所等改修)	郡上市	明宝
		道の駅施設整備事業 (道の駅和良改修)	郡上市	和良
		観光施設整備事業 (和良川公園オートキャンプ場 整備・改修)	郡上市	和良
		観光施設整備事業 (大月の森公園キャンプ場整 備・改修)	郡上市	和良

事業計画（令和3年度～令和7年度）

持続的発展 施策区分	事業名 (施設名)	事業内容	事業 主体	備考
	(10)過疎地域持続的発展特別事業			
	第1次産業	スマート農業技術導入支援事業	郡上市	後継者不足と高齢化が著しい農業においてスマート農業の導入による効率化・省力化の実現は、担い手の確保が期待できる。
		園芸作物振興施設整備事業	郡上市	生産拡大等に必要な機械・施設等の導入経費への支援を行うことで、地域の特産物の振興が期待できる。
		元気な農業産地構造改革支援事業	郡上市	生産基盤となる機械・施設等の整備等の支援を行うことで、産地の構造改革及び農産物の安定生産が期待できる。
		有害鳥獣対策地域力支援事業	郡上市	田・畑への野生鳥獣被害を減らし、耕作者の意欲向上を図ることで、遊休農地の減少が期待できる。
		学校給食地産地消推進事業	郡上市	地産地消に基づき児童・生徒に対して食農教育を推進することにより、県産、市内農産物の継続的な消費拡大、物流の促進が期待できる。
	商工業・6次産業化	新商品開発支援事業	郡上市	地域資源を活用した特産品等の開発を支援することにより地場産業の活性化が期待できる。
		空き店舗等活用事業	郡上市	空き店舗等を利活用することで、空き店舗の減少、地域商業の活性化、起業家の創出などの効果が期待できる。
		小規模事業者支援事業	郡上市	小規模事業者への支援により、事業拡大・雇用の創出による産業の活性化、地域事業者の事業継続による持続的発展及び地域の利便性の確保などの効果が期待できる。
		事業承継支援事業	郡上市	事業承継を支援することにより、地域事業者の事業継続による持続的発展及び地域の利便性の確保などの効果が期待できる。
		商工会活動事業	郡上市	商工会活動を支援することにより、商工業の振興、発展、安定化などの効果が期待できる。

事業計画（令和3年度～令和7年度）

持続的発展 施策区分	事業名 (施設名)	事業内容	事業 主体	備考
	商工業・6次産業化	産業支援センター活動経費	郡上市	産業支援センター活動を支援することにより、中小企業、小規模事業者の持続的発展、安定化などの効果が期待できる。
	観光	郡上八幡城誘客促進事業	郡上市	八幡 郡上八幡のシンボルであり、多くの観光客が訪れる郡上八幡城の誘客をさらに促進することで、他の観光施設への波及効果が期待できる。
		過疎地域持続的発展事業 ・八幡市街地活性化調査・事業化メニュー検討事業	郡上市	八幡 「生業」「体験」「観光」「文化」などをテーマに、地域資源や文化的資源、公共施設を活用した人口増が実現できる事業化メニューを検討・策定することで、過疎対策に主眼を置いた市街地のあり方や方向性を示し、地域活性化と持続可能な地域づくりが期待できる。
		過疎地域持続的発展事業 ・地域の魅力活用事業	郡上市	大和 ガイドブックを作成し、大和の文化・歴史・食などの資源を伝えることにより、大和地域の周遊・滞在型観光につながることを期待できる。
		過疎地域持続的発展事業 ・白鳥振興プロジェクト事業	郡上市	白鳥 観光産業を推進するための組織や体制を確立し、観光雇用の創出が行われることで移住者の増、ひいては地域の担い手の増加が期待できる。
		観光振興2次交通対策事業	郡上市	八幡 公共交通機関を利用した広域観光を推進することにより、郡上八幡市街地での周遊、滞在観光の拡大が期待できる。
		国際競争力の高いスノーリゾート形成促進事業	郡上市	歴史、文化的資源とふれあうスノーリゾートを推進することにより、スノーリゾート地と各地域資源の連携が生まれ、長期滞在化と市域での経済循環が期待できる。

事業計画（令和3年度～令和7年度）

持続的発展 施策区分	事業名 (施設名)	事業内容	事業 主体	備考
	観光	観光協会活動事業	郡上市	市内7地域の観光資源を活かしエリア全体の観光地域づくりを先導するため(一社)郡上市観光連盟の組織強化や地域ならではの歴史文化、行事をPRすることで観光による地域の活性化が期待できる。
		「観光立市郡上」推進事業	郡上市	適切な情報収集と効果的な情報発信を行うことで郡上ファンのネットワークづくりに取り組むことにより持続可能な観光地域づくりが期待できる。
	企業誘致	過疎地域持続的発展事業 ・和良の郷体験型ツーリズム推進事業	郡上市	和良 地域資源や文化的資源、施設の資源を活用した体験型ツーリズムを構築することで、新たな観光地域づくりが期待できる。
		企業誘致促進事業	郡上市	企業誘致により地域の働く場が確保されることで、定住者の増加が期待できる。
		事業所等設置奨励金交付事業	郡上市	企業誘致と既存企業の工場等の新設、増設等を支援することで、産業振興や雇用拡大の効果が期待できる。
	その他	特定地域づくり事業	郡上市	中小企業等の従業員不足に対応するため、企業等が連携して新たな働き方に対応した雇用形態を行うことで、人手不足の解消が期待できる。
		郡上ふるさとコイン推進事業	郡上市	キャッシュレスや電子商品券等のデジタル手段を活用できるシステム構築により、新たな生活様式の構築と経済の活性化が期待できる。

(6) 産業振興促進事項

(i) 産業振興促進区域及び振興すべき業種

産業振興促進区域	業種	計画期間	備考
郡上市	製造業 情報サービス業等 農林水産物等販売業 旅館業	令和3年4月1日～ 令和8年3月31日	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日の 期間は、八幡町、美並 町、明宝、和良町の全 域

(ii) 当該業種の振興を促進するために行う事業の内容

上記(1)(9)(10)のとおり

(7) 公共施設等総合管理計画等との整合

公共施設等総合管理計画では、本市の産業の振興に資する施設を、「産業振興施設」と「観光・保養施設」に大別して掲載しています。

このうち、産業振興施設は、「地域産業の活性化により特産品や雇用を生むために市が設置した施設で、今後は市の産業振興ネットワークの拠点施設を除き、民間事業者等への譲渡や指定管理を進める施設分野」とし、「産業施設」、「農業施設」、「畜産施設」に分類、また、観光・保養施設は、「観光立市実現のための拠点、あるいは市民や観光客の保養や観光資源をPRする場として市が設置等をした施設で、今後はシンボリックな施設を除き、民間事業者等へ譲渡や指定管理を進める施設分野」として、「観光施設」と「保養施設」に分類し、それぞれ次のとおり管理方針を定めています。また、公共施設等総合管理計画の実施計画である公共施設適正配置計画では、個々の施設の方向性をより具体的に定めており、事業計画に掲げている施設については、その方針を以下に示します。

【産業振興施設 -産業施設-】

(公共施設等総合管理計画における基本方針)

- 地域特産品などの販売を主として、事業者の生産活動等によって収益を上げている施設は、指定管理者制度による管理運営を継続しながら、事業の実施内容や経営状況、その他第三者に及ぶ諸条件等を精査した上で、可能な施設については、早期に現在の指定管理者を中心に譲渡を進めます。
- 市の産業振興ネットワークの拠点となる施設は、予防保全を含め計画的な改修を行い、長寿命化します。

(公共施設適正配置計画における個々の施設の具体的方針)

ぎふ大和パーキングエリア上り線道路サービス施設	機能	継続
	施設	検討
・地域の特産物の展示販売を通じて地域の活性化に寄与していることから、機能は継続します。 ・当面、指定管理者制度で運営しますが、事業用借地権等の条件なども含め、将来的には現在の指定管理者への施設及び経営の譲渡について道路管理者等と協議し、その結果に基づき施設のあり方について検討します。		

新規作物等定着促進施設ひるがの物産館	機能	検討
	施設	検討
・施設の設置目的とは異なった使用になっていること、周辺に公衆トイレが設置されているものの、隣接するひるがの湿原植物園利用者の立ち寄り先（トイレ使用含む。）となっていることから、当該施設の必要性、観光地に相応しい公衆トイレの設置を含め、当該施設のあり方について検討します。		

【観光・保養施設 -観光施設-】

(公共施設等総合管理計画における基本方針)

- 観光施設は、地域の活性化や観光振興・産業振興、また地域内外の交流の場としての役割を果たしており、施設の設置目的や運営形態に応じて、商業的な運営により収益性が高い施設と、公共性が高く収益を見込みにくい施設に区分できます。このうち、収益性の高い施設は、現在の指定管理者を中心に譲渡を進めます。
- 収益性が高い施設でも諸条件による制約で譲渡が困難な場合や、収益が見込みにくい施設については指定管理者制度等の公設民営方式を継続します。

(公共施設適正配置計画における個々の施設の具体的方針)

郡上八幡博覧館	機能	継続
	施設	継続
・郡上八幡の歴史等の情報発信機能を継続します。 ・施設は新耐震基準部分と旧耐震基準部分を合わせ、予防保全を含め計画的な改修を行い、長寿命化を図ります。 ・指定管理者制度の運用指針やモニタリング評価などの見直しを行いつつ、指定管理制度による管理運営を継続します。		

郡上八幡城下町プラザ	機能	継続
	施設	継続
・交通・交流の拠点機能を継続します。 ・施設は、予防保全を含む計画的な改修を行い、長寿命化を図ります。 ・指定管理者制度の運用指針やモニタリング評価などの見直しを行いつつ、指定管理制度による管理運営を継続します。		

郡上八幡旧庁舎記念館	機能	継続
	施設	継続
・登録有形文化財（歴史的建造物）として、機能・施設を継続するとともに、法令等に基づき保存・活用のための必要な補修を行い、次代へ継承します。 ・指定管理者制度の運用指針やモニタリング評価などの見直しを行いつつ、指定管理制度による管理運営を継続します。		

道の駅古今伝授の里やまと	機能	継続
	施設	検討
・道の駅としての機能を継続します。 ・施設は、予防保全を含め計画的な改修を行い、長寿命化を図るとともに、管理運営面において、他の大和地域の観光施設（ぎふ大和P A、フィールドミュージアム、やまと温泉やすらぎ館等）と一体的に捉え、設置主体も含めた効率的かつ効果的な経営方法を検討します。		

道の駅明宝磨墨の里公園	機能	継続
	施設	継続
・重点道の駅としての機能を継続するとともに、明宝地域の産業振興の拠点としてのあり方を検討します。 ・施設は、予防保全を含め計画的な改修を行い、長寿命化を図ります。 ・管理運営について、明宝地域の中心的な施設として、地域づくりの拠点としての役割を考慮しながら管理運営手法を検討します。		

道の駅和良（和良運動公園）	機能	継続
	施設	継続
・道の駅としての機能を継続します。 ・施設は、予防保全を含め計画的な改修を行い、長寿命化を図ります。 ・管理運営について、近隣施設（和良歴史資料館）の今後のあり方の検討結果を踏まえ、一体的な経営について検討します。		

【観光・保養施設－保養施設－】

(公共施設等総合管理計画における基本方針)

○保養施設は、温泉施設や宿泊施設などが主であり、既に民間でもサービスが提供されている施設であることから、原則として民間への譲渡を進めます。

(公共施設適正配置計画における個々の施設の具体的方針)

滞在型コンベンション施設「ホテル積翠園」	機能	継続
	施設	継続
・コンベンション機能等は継続します。 ・施設はリニューアルしたことから、予防保全を含め計画的な改修を行い、長寿命化を図ります。 ・管理運営については、第三セクターへの関与を含め、今後の経営のあり方について検討します。		

やまと温泉やすらぎ館	機能	継続
	施設	検討
・市営温泉として最も利用者が多く、近隣施設も含めた観光拠点の一つであるため、温泉機能を継続します。 ・耐震上課題はないものの、施設・設備の老朽化は進んでおり、必要な修繕を行いながら、今後の施設のあり方について検討します。 ・当面は指定管理者による管理運営は継続するものの、現指定管理者が関わる他の大和地域の観光施設を含めた利用実態や経営状況を精査・分析し、施設・経営の譲渡を含め今後の管理運営のあり方を検討します。		

明宝温泉湯星館（明宝食材供給施設）	機能	継続
	施設	検討
・明宝地域唯一の温泉であることから、温泉機能は継続します。 ・耐震上課題はないものの、施設・設備の老朽化は進んでおり、必要な修繕を行いながら、今後の施設のあり方について検討します。 ・当面は指定管理により管理運営を継続するものの、利用実態の精査、現指定管理者の経営状況の分析を行い、施設・経営の譲渡を含め今後のあり方について検討します。		

明宝地域資源活用総合交流促進施設	機能	継続
	施設	検討
・機能は継続します。 ・施設は、適正規模のあり方について検討した上で、改修のあり方について検討します。 ・当面、指定管理者により管理・運営を行うものの、小川地域の特性を活かしたメニューづくりや、地域づくり活動と連携した取り組みを展開するなど、経営改善のあり方について施設の譲渡を含めて協議します。		

郡上市和良川公園オートキャンプ場	機能	継続
	施設	検討
・機能は継続します。 ・施設は、適正規模のあり方について検討した上で、改修のあり方について検討します。 ・当面、指定管理者により管理・運営を行うものの、さらなる経営改善のあり方について施設の譲渡を含めて協議します。		

郡上市和良大月の森公園キャンプ場	機能	継続
	施設	検討
・機能は継続します。 ・施設は、適正規模のあり方について検討した上で、改修のあり方について検討します。 ・当面、指定管理者により管理・運営を行うものの、さらなる経営改善のあり方について施設の譲渡を含めて協議します。		

なお、産業振興施設として分類はしていませんが、公共施設等総合管理計画において公衆衛生施設に区分する公衆便所については、公衆衛生の機能はもとより、観光客等の利便性を高める施設であるとの観点から、具体的な方針の中で「公衆便所は、近隣の公共施設、特に道の駅、公園便所との位置関係を見ながら、適正配置を行います。」としています。

また、農業や林業を振興するためのインフラに関しては、公共施設等総合管理計画において次のとおりの管理方針としています。

(公共施設等総合管理計画におけるインフラ系施設の管理方針)

○その他の市道や、舗装済みの農道、林道等については、道路パトロールや巡視による日常点検を実施しながら、ひびわれ、わだち掘れ箇所等の把握を行い、事後保全により対応していきます。

○未舗装の農道、林道等は、受益地区による日常的な点検を実施しながら、必要に応じて事後保全により対応していきます。

○頭首工等の固定堰及び水路等については、受益地区を中心とした日常的な点検を行うとともに、計画的な整備と保守管理を実施していきます。

○揚水機や可動堰は、定期的なメンテナンス等を行い長寿命化に努め、維持管理コストの縮減とともに更新費用の平準化を図ります。